「森銑三刈谷の会」だより 44(2025/7/19)

発行 2025/7/19 (月刊・メールでの投稿歓迎)
例会 第3土曜日 14:00-16:00 市中央図書館 参加自由

バックナンバー 刈谷市中央図書館>森銑三刈谷の会
共同代表 神谷磨利子・鈴木 哲 tetsu_s@katch.ne.jp

44:2025/6/21(土) 長嶋秀雄氏「服部長七(1840-1919)
と三河人」参加11人

(長嶋 秀雄)

森銑三『史伝閑歩』(中公文庫)で「土木請負師服部長七」を読んだ時、「服部は実は私の郷土三河国碧海郡の生んだ異色のある人物で、私はこの人物に特別の親しみを持っている。」とあり、興味深かった。

私は教員として35年間碧南市で勤務し、最初の9年と最後の3年合わせて12年間を新川小学校で過ごした。その校庭に服部長七の人造石で造った校門が残っていて、業績として、宇品港や神野新田を築いたとあってすごい人だなあと感じたがそれきりであった。

～服部は天成の築港技師であった。彼の前には難工事がなかった。・服部は言った。「今日の技師の皆さんは、水と風と土砂との関係や、それらの一つ一つの性質についての研究が足りません。人間の小智慧でこしらえた数学や、力学や、工学や、そうしたもので、大自然の猛威に抵抗しようということからして間違いです」この言葉の裡にはいふべからざる妙味がある～

宇品港築港の時、一週間湾内で草鞋を釣って流れが急でないことを確かめたとか佐渡の築港の時には、土地の古老に何かと問いもして、これまでとは反対の方面に防波堤を築き、堅牢無比の港を築いた。別の新聞の投書に、設計図の出来が良いので誰と相談したと問われ「誰にも相談しません。海へ出かけて行って、浪と相談して来ました」と答えたのも服部と断じているが、神戸港改築という点が気にかかる。

～服部は無学文盲な男で、仮名すらもろくろく書けなかった。それでいて彼は天才だった。

「おれの技術は、水の神と風の神とからの直伝だ」と豪語した。学問を鼻にかける専門家などは、眼中になかった。・服部長七は奇男子だった。～結びでこう述べているが、ここに森銑三が長七に特別な親しみを持った要因があると感じた。

無学文盲の例として、岡山県で旭川の落口の堤防を調べた時、熊澤蕃山がこしらえた事を聞き

「そのバンザンというのは、なかなか遣る男だ。一度会ってみたいが、ちょっと紹介状を書いて下さらんか」と服部に言われ、知事が一驚した、とある。

『服部長七物語 人造石を発明した土木の神様』碧南市教育委員会 平成22年11月30日発行を読むと、父を早くに亡くし、桑名で左官の修行をしたり、饅頭屋や酢の製造などいろいろと苦労を重ねている。

東京へ出て、饅頭屋をしていたが、水の汚い事に驚き、良水を求めて井戸工事を始め、<長七たたき>を発明した。時の内務大臣品川弥二郎と出会い、その才能を認められ、明治の元勲宅の工事をして名をあげた。<長七たたき>は<三河たたき>とも言われたが、外国人技師が<人造石>と言ったことからその後は、全国的に<人造石>として知られていった。

岡崎市の夫婦橋を初めて木造ではなく、人造石で造った時、岩津天神の神様が夢枕に立って、危ないところを教えてくれた。次の日その所を修理して無事完成できたと伝わる。高浜市の服部新田の堤防を人造石で築き、海での工事に自信を深めた。この二つの工事が、長七のその後の業績の礎となった。日本各地の築港工事や愛知県内での多くの実績が現在も残っているが、明治から大正に代わった時、岩津天満宮の崇敬者代表として、社殿再建に力を尽くし、岡崎市名誉市民に名を連ねている。現在も子孫の方が岩津天神の宮司を務めている。

～三河の人士の特質として、律儀の一事が昔から挙げられるのであるが、右の逸事よりして、服部もまた律儀の人物だったことが明確にせられるのであり、私もまた三河生れの間人として、明治に生きた服部に、最も三河人らしい三河人だったことの認めらるるのに、大きな喜びと誇りを感じずるものである。～という文に銑三の強い思いが伝わってくる。自分も三河人として、本当に律儀(義理堅く実直である)か胸に手を当てて考えさせられますが。

岩津天満宮 中興の祖『服部長七翁物語』の最初に世界遺産・アンコール遺跡の修復に長七の人造石の技術が活かされたとあり、驚きと喜びを感じた。岩津天神は子供の頃に行ったきりなので、服部長七の足跡を訪ねてお参りに行きたいと思った。

たたきの歴史に感動

三ツ松 悟

長嶋秀雄さんから解説していただいた「土木請負師服部長七」は大変興味深い内容でした。服部長七なる人物は初めて聞いたのですが、身近にそのような傑物がいたのを知って先ずびっくりでした。灯台下暗しとはこのことかと思いました。その人のことを森銑三さんの文章から知るということも驚きでした。

人物研究者として第一人者である銚三さんの目の付け所と関心の深さ広さを痛感しました。

服部長七と云う人の研究意欲と度量・実行力と豊かな人間性に感服しますが、江戸時代から明治新時代に至る文明開化が全て欧化だけで進んだのではなく、日本人の身体頭脳の中に培われてきた知識経験の蓄積が大きく存在したことを教えてくれる素晴らしい逸話であったと感じました。

聞き終えて森銚三さんの郷土愛が沸々と湧き出るような文章であり、刈谷に生まれ三河を愛する私にとっても胸のすくような思いを抱かせていただきました。

銚三さんが服部長七を取り上げたことにも納得

山田 宇多子

服部長七のことを、ぜんぜん知らなかったの、長嶋さんのお話はとても面白かったです。

「新川」「大山公園」など知っている場所が出て来ると興味の度合いもぐっと深くなります。長七の人となり（考え方、技術、観察眼）など感動しました。昔の日本人・三河人には、なんと優れた人がいたのかと誇りに思いました。履歴書のエピソードには、くすりと笑えました。銚三さんがこの人を取り上げて書かれたことにも納得がいきます。

第44回「土木請負師服部長七」に寄せて

飯田 芳子

その道に卓越した職人さんの話はよく聞くとところであるが今回の資料の中でその仕事量に驚かされ、その言葉から自然を理解しそこから学ぶ姿がうかがえる。その炯眼は熊沢蕃山の遙か時を超えた仕事も見逃すことはなく、そこに学ぼうとする姿勢に頭の下がる、仕事人としての姿を見ることができた。叩きという左官の仕事への導入部もろ過設備の研究過程から入っており仕事への向かい方の爽快さを感じさせて小気味のよい人物紹介に与ることができた時間でした。「三河たたき」初めて知る言葉でした。

引き込まれた長七さんの生き方

神谷 明子

長嶋さんの話、私は初耳のことなので、とても興味深かったです。主人は碧南人だから、名前は知ってました。昔の我が家は玄関とか、床の間への上り口は三和土でしたが、あれが建設資材になるとは？新川に行かなくては。

長七さんの職人氣質や、商売人としての生き方は太腹で、映画を見ているようで、引き込まれました。夢のお告げで、事業が軌道に乗り、引く時は神の奉仕者

としての道を進まれるなんてホントにドラマですね。それと小学生が調べて発表しているとは！聞いてみたいですね。身近な偉人を知ることができてよかったです!!ありがとうございました

近くの服部長七の人造石を見に行きたい

神谷 美恵子

碧南出身なので知っている地名や名称が沢山出てきましたが服部長七の名前は初めて聞きました。仕事に対する情熱、探求心、行動力、損得を考えないなど凄いですね。銚三さんに通じる所がありますね。近くの人造石やたたきの道を見に行こうと思っています。

学生時代を振り返ると勉強の為の勉強をしていた様な気がします。もう少し広い視野が持っていたらと思う時があります。人生幾つになっても、勉強ですね。何かが見つかる様な気がしますから。

服部長七・熊沢蕃山・井上通泰・森銚三の流れ

神谷 磨利子

今回読んだ森銚三「土木請負師服部長七」（『史伝閑歩』）には、銚三が同郷の碧海郡出身の服部に「特別の親しみを持つてゐる」ことが描かれていた。中でも岡山の海岸を視察し、その堤防や水門のでき具合に感嘆した服部が、それを造った熊沢蕃山に紹介状を書いてくれと知事に頼んだという話は面白い。蕃山(1619-1691)と言えば銚三の師・井上通泰が研究者として知られている。銚三は『史伝閑歩』の中の「熊沢蕃山遺事」で、思想家であり卓越した実務家でもある蕃山が、前述の岡山領内の土堤を造る際に如何に工夫したかを書いている。後に服部が自然の摂理に合わせて築港工事をした姿と重なる。

長嶋さんの詳しい資料と解説で、「三河たたき」「服部長七」に一同引き付けられ、終了後も興奮冷めやらぬ体であった。

2025/7以降の予定

45：2025/7/19(土) 視聴覚室：神谷磨利子「森銚三・森三郎往復書簡（昭和43年10月）」を読む

※ 8月は休会

46：2025/9/20(土) 第1会議室：鈴木哲「永井荷風「断腸亭日乗」で読む森銚三「偏奇館の或日」

47：2025/10/18(土) 視聴覚室：森銚三(1934年)「黄表紙作家としての唐来三和」～『再会親子銭独楽』（寛政5年、出版つたや）を読む(1)～

48：2025/11/15(土) 第1会議室：『再会親子銭独楽』（寛政5年、出版つたや）を読む(2)

※ 12月は休会